

本日ここに、ご来賓、各研究科長、各研究所長はじめ、関係各位のご列席のもと、平成十八年九月、東北大学、学位記授与式を挙行することになりました。

本日、学士の学位を授与されたものは、文学部、六名、法学部、九名、経済学部、二十三名、理学部、一名、工学部、十一名、あわせて五十名であります。

修士の学位を授与された者は、文学研究科、一名、法学研究科、二名、経済学研究科、五名、理学研究科、五名、医学系研究科、二名、工学研究科、十七名、国際文化研究科、一名、環境科学研究科、一名、教育情報学教育部、一名、合わせて、三十五名であります。

博士の学位を授与されたものは、課程を修了したものの、文学研究科、十三名、教育学研究科、一名、法学研究科、三名、経済学研究科、二名、理学研究科、十名、医学系研究科、十名、薬学研究科、四名、工学研究科、七十二名、農学研究科、二名、情報科学研究科、十一名、生命科学科学研究科、一名、環境科学研究科、二名、合わせて、百三十一名であります。

博士論文を提出し、博士の学位を授与された者は、文学研究科、二名、理学研究科、六名、医学系研究科、十一

名、歯学研究科、四名、薬学研究科、三名、工学研究科、  
五名、農学研究科、三名、情報科学研究科、一名、環境  
科学研究科、一名、合わせて、三十六名であります。

本日の学位記授与者は二百五十二名であります。その  
中には、十月に入学した者、八十六名、学業成績が優秀  
により、早期卒業制度適用者、六名、修士、博士、在学  
期間短縮適用者、二十五名の諸君らもおられます。

さらに、長年にわたる大変な努力により論文を書き上げ、  
博士の学位を授与された方々もおられます。

学位記を授与された諸君、さらに諸君を長年にわたり支  
えてこられました、ご家族の皆様にも、心からお祝いを  
申し上げます。

諸君には、本学学位の授与、そして、杜の都、学都仙台  
で、東北大生として過ごしたことを誇りとし、今後の多  
方面での活躍を期待いたします。

東北大学は、明治四十年、一九〇七年に、わが国の第三  
番目の帝国大学として設立されました。

開学以来、私たちの先人は、「研究第一主義」「門戸開放」  
の理念を掲げ、「実学尊重」の精神を基に、数々の世界に  
誇りうる成果を挙げてまいりました。

この理念の基、本学の教育目標は、社会の指導的人材の養成でありました。豊かな教養と人間性を追求し、「科学する心」を持つ行動力ある人材を育てること。そして、世界水準の研究を理解し、これに新たな知見を加え発信する、創造的研究者でありました。諸君はこの明確な理念のもと、最高学府の課程を、ここに無事終えられたことを、十分に自覚していただきたいと思います。

平成十六年四月、すべての国立大学は法人化され、本学も国立大学法人東北大学となりました。国立大学は、自らの判断と責任のもと、特色のある教育研究に、取り組まなければなりません。本学は、これまでの歴史と伝統を十分に受け継ぎ、更なる発展を目指すべく、「研究中心大学」、「世界と地域に開かれた大学」、「指導的人材の養成」の三点を目標とし、独創的な研究及び高等教育を推進する、世界に冠たる総合大学として、これまで以上に積極的な活動を展開すべく、六年間の中期計画を立てました。目下、教職員が一致協力して、この中期計画の速やかな実現に、取り組んでいるところであります。このように、国立大学は現在、大きな節目にあります。明治の帝国大学、昭和の敗戦による国立大学制度、に次ぐ、

第三の改革といわれている所以であります。

さらに特に本学は歴史的な記念日、創立百周年記念を来年、平成十九年、二〇〇七年に迎えようとしております。

百周年に向けては、記念基金の創設、創立五十周年記念の川内記念講堂の大改修、東北大学百年史の刊行、「科学が次の百年で作り出せること」をテーマとした「東北大学百周年記念セミナー」など、全学的な取り組みの真最中であります。

また、長年の懸案でありました、青葉山への新キャンパス移転が、本年七月に正式に決定し、来年の百周年には、造成工事が始まります。豊かな自然環境に配慮した計画には、広大な敷地に、産学官の交流の場としての、サイエンス・パークの建設などの、今までに無い、新しい構想も含まれております。

これらの多くの大事業の成否、責任の一端は、今後諸君が、今日までの貴重な経験、研究室、教室で日夜努力して得た学問を十分生かされ、社会人として、また研究者として、国、内外において、大いに活躍していただくことにもあると、思っております。

最後にあたり、東北の生んだ、偉大な教育者、新渡戸稻

造氏が、一九〇〇年、明治三十三年、アメリカで刊行した「武士道、日本の魂」をここに引用させていただきます。

「あなたがたの学校では宗教教育というものが無い、とおっしゃるのですか」、「宗教がないとは。いったいあなたがたはどのようなにして子孫に道徳教育を授けるのですか」。ベルギーの法学者と氏との会話です。

—武士道は、日本の象徴である桜花にまさるとも劣らない、日本の土壤に固有の華である。それは今なお、私たちの心の中にあつて、力と美を兼ね備えた生きた対象である。それは手に触れる姿や形はもたないが、道徳的雰囲気、薫りを放ち、今も私たちをひきつけてやまない存在である。—

—武士道はどのような有能な人物であろうとも、一個の頭脳が創造しえたものではない。また、いかなる卓抜な人物であつたとしても、ある人物がその生涯を賭けてつくりだしたものでもなかつた。

むしろ、それは何十年、何百年にもわたつての有機的産物であつた。—

敷島の大和心を人問はば

朝日に白う山桜花

諸君が、今後大いに精進され、それぞれの道で優れた指導者になることを念じ引用させていただきました。

東北大学が創立百周年記念日を迎えるにあたり、最も大切なことは、これまでの百年における、多くの先人の努力、業績を偲びつつも、まさに、次の百年の新たな出発点であること、であります。

やがて訪れる次の百年が、いかなる展開を示すのか、その大いなる飛躍を、予見することは、困難ではありますが、無限の可能性を秘めた、諸君らの双肩にかかっていることは、疑いがありません。次の百年の基礎を、新たな歴史の創造を、心していただきたいと思います。

本日の学位記授与式にあたり、諸君の一人ひとりの大成を、さらにこれからの人生に、幸多きことを祈念いたし、お祝いの言葉といたします。

平成十八年九月二十五日

東北大学総長 吉本高志